

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：地域高規格道路 濃尾横断自動車道 一般国道256号 和良金山道路	事業区分：一般国道	事業主体：岐阜県			
起終点：自：岐阜県郡上市和良町方須 至：岐阜県下呂市金山町乙原	延長：2.7km				
事業概要 濃飛横断自動車道は、岐阜県郡上市の東海北陸自動車道から下呂市の国道41号を經由し、中津川市の中央自動車道を結ぶ、岐阜県の広域幹線ネットワークを形成する延長約80kmの地域高規格道路である。 濃飛横断自動車道の一部を構成する和良金山道路は、郡上市和良町方須から下呂市金山町乙原に至る延長2.7kmの2車線道路である。本道路は、現国道256号の線形不良区間の解消、防災点検要対策箇所の回避及び周辺道路の異常気象時等通行規制時の迂回路確保を主な目的として事業を推進している。					
H20年度事業化	H21年度用地着手	H22年度工事着手			
全体事業費	64億円	事業進捗率	18%	供用済延長	0km
計画交通量	3,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 47/59 億円 事業費：45/57 億円 維持管理費：1.5/1.5 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 70/70 億円 (走行時間短縮便益：58/58 億円) (走行経費減少便益：9.0/9.0 億円) (交通事故減少便益：3.3/3.3 億円)	基準年：平成24年	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.3 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.3 (事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=1.3~1.6 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4~1.7 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4~1.6 (事業期間±20%)					
事業の効果等 ①住民生活 ・第三次救急医療施設である高山赤十字病院が選択肢として増える。 ②地域経済 ・郡上市・下呂市間の所要時間短縮と円滑化によりアクセスが向上する。 ・郡上八幡ICから下呂市内の観光地へのアクセスが向上し、更なる観光交流や産業振興が期待される。 ③災害 ・地域高規格道路の位置付けあり。 ・本道路完成後は、第二次緊急輸送路に指定される。 ・国道41号、主要地方道金山明宝線の異常気象時等通行規制時の迂回路が確保される。 ・国道256号の現道上の防災点検要対策箇所の回避ができる。 ④地域社会 ・郡上市と下呂市の相互のアクセスが向上する。 ・岐阜県の県土1700km骨格幹線ネットワーク構想のうち、主要骨格幹線ネットワーク道路の位置付けあり。					
関係する地方公共団体等の意見 下記団体により、強く要望されている。 「濃飛横断自動車道事業促進期成同盟会」(下呂市・郡上市・中津川市・東白川村、関係商工・観光協会) 「益田商工会連絡協議会」(下呂・小坂・萩原・馬瀬・金山商工会他地元観光協会) 「ぎふ国道256号整備促進期成同盟会」(岐阜市・山県市・関市・郡上市・下呂市・中津川市・白川町等)					
事業評価監視委員会の意見 事業主体の対応方針(案)「継続」を了承する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・東海北陸自動車道や高山清見道路の開通により交通が転換し、下呂市内の国道41号の交通量が減少。 ・下呂温泉の観光客数が低迷(3年間で1割程度減) ・下呂市内に地域高規格道路：金山下呂道路が開通(H24.7.24)					

事業の進捗状況、残事業の内容等

全体進捗率：18%、用地補償進捗率：93%（平成24年度末）

残事業の内容：（仮称）和良川橋架設、（仮称）和良金山トンネル施工

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後の事業の見通し：平成27年度に完成供用を予定

施設の構造や工法の変更等

（仮称）金山ICの合流車線がトンネル内まで影響していたため、トンネル坑口付近で2車線以上の断面が必要であった。しかし、ランプの縦断勾配を変更することで、合流車線の影響範囲をトンネル外とし、トンネル坑口付近の断面を2車線分の断面のみとすることができた。

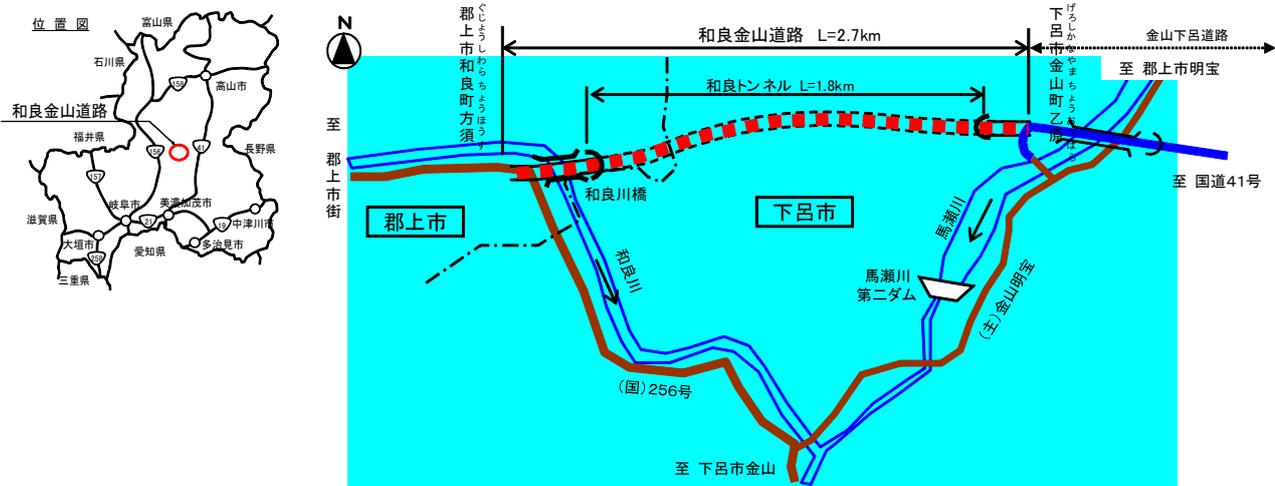
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を踏まえると、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。